

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



合田 直弘

11月5日にデルマーで行われた2歳馬によるダート8.5FのG1BCジュヴェナイルの勝ち馬コーニッシュ(牡2、父クオリティロード)が、今週のこのコラムの主役である。

84年に創設されたブリーダーズCは、07年から2日間開催となった後、08年から牝馬限定戦を開催初日に集め、「レディース・デイ」と称して施行する時代が10年余り続いた。

プログラムに改革が施されたのが18年で、この年から開催初日には2歳戦が集められ、「フューチャー・スターズ・フライデー」と銘打って施行されている。未来のスター候補が集うBC初日だが、中でも注目度が高いのが、半年後に迫ったケンタッキーダービーへの重要な指針となるジュヴェナイルである。

今年のジュヴェナイルは、東海岸と西海岸のそれぞれに、デビューから無敗の2連勝でG1制覇を果たした逸材がいて、この2頭の直接対決が大きな話題を集めているのだが、東海岸でG1ジャンパンS(d8F)を含めて2戦2勝だったジャッククリストファー(牡2、父マニングス)が、レース前日に左前管骨瘤のため出走を取り消してしまい、残念ながら東西対決は幻に終わっている。かくして、ファンの期待は西海岸の無敗馬コーニッシュに集中することになった。

G2ジョンメイビーS(芝9F)など6重賞を制した他、G1メイトリアークS(芝8F)2着などの成績を残したウエイステッドテイアースの6番仔となるのがコーニッシュだ。1歳秋にキーンランド9月1歳市場に上場されるも38万5千ドルで主取りになると、7カ月後にフロリダで行われたOBS4月2歳市場に登場。公開調教で1F10秒フラットの好時計をマークした後、セール最高価格の150万ドル(当時のレートで約1億6362万円)で、ピーター・フルーオー氏とケイン・ウエイナー氏の競馬組織スピードウェイ・ステールズに購買されている。

ボブ・バファート厩舎に入厩したコーニッシュは、9月4日にデルマーのメイドドン(d5.5F)でデビュー。ここを4.1/4馬身差で制すると、次走はいきなり10月1日にサンタアニタで行われたG1アメリカンフレイロース(d8.5F)に挑み、これも3.1/4馬身差で制して無敗のG1制覇を達成した。

そして、G1BCジュヴェナイルも1.3/4馬身で逃げ切り、全米最優秀2歳牡馬の座を確実にしたコーニッシュは、当然のことながらケンタッキーダービーの最有力候補となり、ブックメーカー各社も同馬に11~13倍のオッズを提示し、前売り1番人気に支持している。ところが、である。ケンタッキーダービー

の公式ホームページを閲覧すると、有力候補のリストに同馬の名前が見当たらないのだ。

フルゲート20頭のケンタッキーダービーの出走枠に入るには、原則として、今年の9月から始まっている指定競走でポイントを獲得し、通算ポイントの上位20位までに入る必要がある。アメリカンフレイロースの1着で10点を、BCジュヴェナイルの1着で20点を獲得しているコーニッシュは、リーダーボードのトップに名前があるべきところ、実際には同馬のポイントが現段階でゼロなのである。

今年のケンタッキーダービーで、1着で入線したボブ・バファート厩舎のメディナスピリットから、禁止薬物が見つかった件は、競馬ファンならば既にご存知だろう。この事案は法廷闘争に持ち込まれており、ケンタッキーダービーの裁定は依然として出されていないのだが、ケンタッキーダービーを主催するチャールズダウンズは既に、バファート師の管理馬を23年春まで出走停止にしており、のみならず、バファート厩舎所属馬には、仮に指定競走で勝利しても、ダービーポイントを与えないとの指針を示しているのである。

法廷闘争の行方は予断を許さない状況にあるが、素質ある若駒がダービーの舞台に立てない事態だけは、何としても避けて欲しいと願わざるをえない。